

ISSN 1882-5230

むかわ町
穂別博物館館報

第33号

平成27（2015）年度版

むかわ町穂別博物館

目 次

沿革	----- (p. 1)
施設の概要	----- (p. 5)
施設平面図	----- (p. 5)
展示活動	----- (p. 6)
広報活動	----- (p. 7)
教育普及活動	----- (p. 12)
収蔵資料概要	----- (p. 16)
資料収集保存活動	----- (p. 16)
調査研究活動ほか	----- (p. 21)
運営	----- (p. 24)

穂別博物館は、昭和 57(1982) 年に開設され現在に至っている。

昭和 50(1975) 年に発見された長頸竜「ホベツアラキリュウ」標本が契機となり設置計画が検討された当初は「穂別町郷土資料館」との名称だったが、建設計画では「穂別町立博物館」として名称変更されている。

当博物館では「本町で発見される化石（自然史）」の研究・保存・普及と「町の歴史（人文）」の保存・普及を行う総合博物館として運営していたが、約 10 年にわたる博物館活動の結果、自然史系資料の蓄積量と人文系資料の保存等に要する作業量に大きな差が生じ、活動方針の変更が余儀なくなった。

そこで活動方針を「穂別地域で産出する古生物（化石）を材料とし『地球と生命の歴史を考える』総合博物館とする」ことに変更したのである。

ここではその経緯を記録し、今後の活動等の充実と強化に努めていきたい。

なお、当博物館は、国の公立社会教育施設整備事業及び北海道市町村振興事業の補助を受け建設されている。

I 「建設の目的」と「展示更新」、「名称変更」

〈穂別町郷土資料館建設の目的〉

『本町は、クビナガリュウをはじめデスモスチルス、海ガメなど多くの動植物の化石が発見されることから、道内でも特異な地質条件にあることが予想される。こうした自然環境を背景に、先人は寒冷地での生活に耐え抜いて開拓の苦闘に打ち勝って穂別の歴史を展開してきた。穂別町開町 70 年（町制施行 20 年）を記念して、本町の地質系統と生物の進化、開拓の足跡を示す歴史資料を収集・保存・展示して、先人がいかに自然との調和を図りながら開拓を進めてきたかを理解し、そして未来を創造するために穂別町郷土資料館を建設するものである。』

〈昭和 55(1980) 年 11 月 26 日〉

〈展示更新の基本的考え方〉

『穂別地域で発見される脊椎動物を始めとするさまざまな化石群が、学術的に貴重なものであることは主張するまでもない。さらに、化石を古生物としてみた場合、学術的な意味を離れても、一般の観覧者にさまざまな示唆を与えてくれるものなのである。

旧来の博物館と異なり、化石をいわゆる「変・古・珍」として扱わず、「我々人間につながる生き物」として見ることを展示の基本に置く。実物は「穂別地域産」にこだわり、模型は「生きていたときの姿」にこだわる。そして、現在の種々の生き物達の間接関係と同じく、過去の「古」生物達にも同様の生態系としての関連があったこと、さらに、それらは数十億年も昔から現在にかけて綿々と続く「生命の歴史」の 1 頁 1 頁であることを理解させる博物館とする。』

〈平成 2(1990) 年 6 月 27 日〉

〈市町村合併による名称変更〉

平成 18(2006) 年 3 月 27 日に穂別町と鶴川町の合併によって「むかわ町」が誕生し、町立博物館である当館の名称は、新町の名称に合わせて変更する必要性が生じた。しかしながら、これまでの実績との継続性、また、登録資料番号（HM-：HOBETSU MUSEUM の略）の維持のため、新名称には「穂別」の文字を残すこととし、新たな名称を「むかわ町穂別博物館」（英語表記：HOBETSU MUSEUM）とした。

II 沿革

- *本年表において「長頸竜」・「首長竜」・「クビナガリュウ」・「ホベツアラキリュウ」の使い分けは、以下の通り。
- ・長頸竜：動物分類上の suborder PLESIOSAURIA の和訳として用いている。「蛇頸竜亜目」または「長頸竜亜目」が正式名称。
- ・首長竜：「発掘調査団」の固有名称として使用。
- ・クビナガリュウ：長頸竜の通称として使用。
- ・ホベツアラキリュウ：「穂別町首長竜化石発掘調査団」によって発掘された長頸竜標本の名称。
- *名称等は、当時のまま表記してある。

昭和 50(1975) 年

- 6月：荒木新太郎氏（穂別町在住）が穂別町字長和において、脊椎動物化石の入った母岩を発見、一部を採集した。

昭和 51(1976) 年

- 9月：佐藤昌人指導員（苫小牧青少年センター）・佐藤隆久教諭（穂別町立仁和小学校）が荒木氏発見の脊椎動物化石を長谷川善和主任研究員（国立科学博物館）に鑑定を依頼した。

昭和 52(1977) 年

- 2月：長谷川主任研究員の鑑定結果が新聞で報道された。荒木氏発見の脊椎動物化石が白亜紀海棲爬虫類の鱗の一部であると確認された。
- 7月 5-8日：「穂別町首長竜化石発掘調査団」結成、発掘調査。この長頸竜標本を後に「ホベツアラキリュウ」と命名。

昭和 53(1978) 年

- 5月：「ホベツアラキリュウ」標本のクリーニング（剖出）作業開始
- 11月：穂別町立郷土資料館 開館（旧・穂別町立さくら保育所施設利用）

昭和 54(1979) 年

- 5月：長頸竜化石骨が穂別町指定文化財第2号に指定される。

昭和 55(1980) 年

- 10月16日：「穂別町郷土資料館建設計画検討委員会」発足

昭和 56(1981) 年

- 3月13日：施設の名称を穂別町郷土資料館から穂別町立博物館に変更

昭和 56(1981) 年

- 7月-12月：博物館建設工事
- 9月1日：鈴木茂学芸員就任（-昭和60年3月31日）

昭和 57(1982) 年

- 1月16日：長頸竜復元作業開始
- 3月-6月：博物館展示工事
- 7月20日：博物館開館。一般公開開始（初代館長：今幸太郎教育長兼任）
- 8月26日：「博物館協議会」発足
- 11月1日：北海道博物館協会加入
- 12月19日：長頸竜（ホベツアラキリュウ）復元骨格展示公開
- 12月19日-1月23日：特別展（第1回）「よみがえるクビナガリュウ」

昭和 58(1983) 年

- 3月2日：博物館法による登録博物館となる（北博登第28号）

昭和 58(1983) 年

- 3月28日：「博物館協力会」設立
- 4月1日：日本博物館協会加入
- 4月28日：菅原康次（第二代）館長就任
- 7月22日-8月7日：収蔵資料展（第1回）「地図展」
- 8月1日：全国科学博物館協議会加入
- 11月1日-3日：収蔵資料展（第2回）「こけし展」

昭和 59(1984) 年

- 2月：村上隆著「よみがえるクビナガリュウ」発刊
- 3月27日：「穂別町立博物館研究報告」刊行開始
- 6月14日：第二展示室（町立博物館保存庫）完成
- 11月1日-4日：収蔵資料展（第3回）「古い写真・古い文書展」
- 12月1日：桜庭勝美（第三代）館長就任

昭和 60(1985) 年

- 3月30日：「穂別町立博物館館報」刊行開始
- 5月1日：地徳力学芸員就任（-平成11年3月31日）
- 11月1日-10日：特別展（第2回）「北海道一億年」

昭和 61(1986) 年

- 10月21日-11月9日：特別展（第3回）「穂別の自然」

昭和 62(1987) 年

- 1月1日：今幸太郎（第四代）館長就任（教育長兼任）
- 7月28日-8月9日：特別展（第4回）「アンモナイトの系図」

昭和 63(1988) 年

- 7月17日：第三展示室（保存庫）完成
- 8月23日-9月4日：特別展（第5回）「穂別のカメ化石」
- 10月6日：今幸太郎（第五代）館長就任（専任）

平成元(1989) 年

- 6月30日：仲谷英夫氏（香川大学助教授）：長頸竜ホベツアラキリュウ標本の記載論文公表
- 7月18日-8月20日：特別展（第6回）「穂別のむかし=写真で見る穂別の歴史=」
- 9月29日-10月6日：地徳学芸員をカナダ・アルバータ州ティレル古生物学博物館に派遣した。

平成 2(1990) 年

- 7月23日：ドラムヘラー市長夫妻（カナダ、アルバータ州）来館
- 8月18日-9月16日：特別展（第7回）「戦争と穂別」
- 9月3日-5日：レイド、M.G. 氏（アルバータ州ティレル古生物学博物館）来館
- 12月31日：野田藤雄（第六代）館長就任（教育長兼任）

平成 3(1991) 年

- 4月1日：佐藤稔（第七代）館長就任
- 4月28日、29日：入館者10万人突破記念事業

平成 4(1992) 年

- 2月1日：展示更新工事開始
- 4月23日-25日：カリー、P. J. 氏（アルバータ州ティレル古生物学博物館）来館
- 4月29日：展示更新完了、一般公開再開

平成 6(1994) 年

- 4月1日：野田藤雄（第八代）館長就任（教育長兼任）
- 4月1日：川上源太郎学芸員就任（-平成10年3月31日）

平成 7(1995) 年

- 7月15日-9月12日:川上学芸員をカナダ・アルバータ州ティレル古生物学博物館に派遣、研修。
- 8月12日:かせき学習館完成
- 平成8(1996)年
- 7月27日-28日:96北海道化石サミット開催(穂別町民センター)
- 10月6日:大江美津夫(第九代)館長就任
- 平成9(1997)年
- 7月6日、7月10日-8月31日:クビナガリュウ発掘20周年記念事業パネル展(第8回特別展)
- 平成10(1998)年
- 4月1日:櫻井和彦学芸員就任(-現在)
- 6月11日:星功(第十代)館長就任
- 8月11日-8月31日:特別展(第9回)「地球物語り(地質学普及書の近代史)」
- 平成11(1999)年
- 1月1日:山田正(第十一代)館長就任
- 5月29日:入館者30万人突破記念事業
- 8月1日-8月31日:特別展(第10回)「滄龍の泳いだ海-7000万年前の穂別-」
- 10月5日-11月28日:特別展(第11回)「穂別の自然」
- 平成12(2000)年
- 8月1日-8月31日、9月14日-10月1日:特別展(第12回)「穂別の石-川原の石から見た穂別」
- 9月14日-10月1日:日胆地区博物館等連絡協議会主催移動展「日高・胆振の博物館紹介」
- 平成13(2001)年
- 8月1日-8月25日:特別展(第13回)「穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-」
- 平成14(2002)年
- 4月28日-5月17日:特別展(第14回)「ツノのある奇妙なカメ-海の穂別からリクガメ化石の発見-」
- 7月1日-21日:特別展(第15回)「穂別町立博物館の20年-クビナガリュウとともに-」(再公開)
- 7月20日:開館20周年記念講演・討論会「化石の里(まち)の博物館」
- 7月27日-8月9日:博物館協力会企画展「穂別の化石」
- 8月31日-9月27日:特別展(第16回)「穂別のカメ化石-恐竜時代のウミガメとリクガメ」
- 平成15(2003)年
- 1月1日:清川博之(第十二代)館長就任
- 4月9日:堀田良幸(町内在住)による脊椎動物化石の発見と当館への寄贈(後にハドロサウルス科恐竜化石と判明)
- 7月20日-8月31日:特別展(第17回)「穂別を泳いだモササウルス」
- 11月1日-1月31日:特別展(第18回)「虫とくらし」(協力:北海道開拓記念館)
- 平成16(2004)年
- 7月17日-8月31日:特別展(第19回)「クジラとデスマスチルス-穂別を泳いだ哺乳類-」
- 10月30日-12月12日:特別展(第20回)「火山と地震-佐々保雄北海道大学名誉教授一括資料展」
- 平成17(2005)年
- 7月16日-8月31日:特別展(第21回)「ホベツアラキリュウ発見30年」
- 10月29日-12月18日:特別展(第22回)「絵はがきは語る-旅の思い出・昔のまちなみ-」(協力:北海道開拓記念館)
- 平成18(2006)年
- 3月27日:「むかわ町」誕生(穂別町・鶴川町の合併による)、当館の名称を「むかわ町立穂別博物館」と改称
- 3月27日:本多廣行(第十三代)館長就任
- 7月15日-9月3日:特別展(第23回)「貝が語るむかわの一億年」
- 10月28日-12月17日:特別展(第24回)「むかわの自然-山と干潟の生き物たち-」
- 平成19(2007)年
- 4月1日:柏恵一(第十四代)館長就任
- 7月21日-9月2日:特別展(第25回)「むかわの一億年-化石や石が語る五つの海」
- 11月3日-12月2日:特別展(第26回)「鉱業のまち、ほべつ-穂別の炭鉱と鉱山の歴史-」
- 平成20(2008)年
- 7月19日-8月31日:特別展(第27回)「海へ帰った動物たち-穂別のセキツイ動物の秘密-」
- 11月1日-12月7日:特別展(第28回)「穂別D遺跡-一万年前の人々のくらし-」
- 平成21(2009)年
- 7月18日-9月30日:特別展(第29回)「穂別海竜博物館-穂別を泳いでいた海竜たち-」
- 平成22(2010)年
- 2月6日-5月30日:特別展(第30回)「北海道アンモナイト図鑑」
- 7月17日-10月31日:特別展(第31回)「白亜紀ウミガメ化石展」
- 平成23(2011)年
- 3月19日-5月29日:特別展(第32回)「白亜紀巨大二枚貝 イノセラムス・ホベツエンシス展」
- 4月1日:今莊光男(第十五代)館長就任
- 7月23日-10月30日:特別展(第33回)「歯のかたち-クビナガリュウ vs モササウルス-」
- 8月7日:佐藤たまき准教授(東京学芸大学)により、堀田良幸氏寄贈の脊椎動物化石が恐竜化石である可能性が指摘される。
- 9月20日:小林快次准教授(北海道大学総合博物館)により、堀田良幸氏寄贈の脊椎動物化石がハドロサウルス科恐竜化石であると同定される。
- 12月3日:「モササウルス国際シンポジウム」
- 平成24(2012)年
- 4月-平成25(2013)年3月:穂別産恐竜化石発掘調査 書類申請準備
- 平成25(2013)年
- 4月1日:阿部勉(第十六代)館長就任
- 9月2日-10月5日:穂別産恐竜化石発掘調査(第一次発掘)
- 平成26(2014)年
- 9月4日-9月30日:穂別産恐竜化石発掘調査(第二次発掘)

平成 27(2015) 年

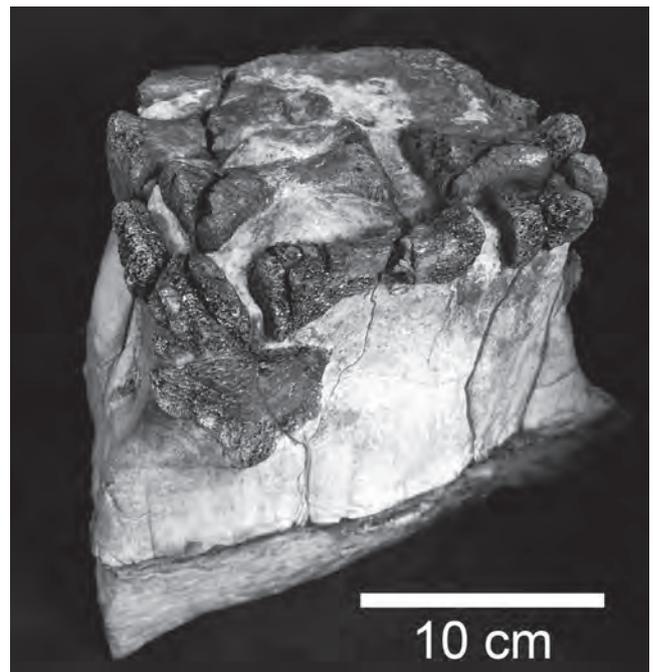
- 4月1日：加藤英樹（第十七代）館長就任
- 4月1日：西村智弘学芸員就任（平成 21 年度～平成 24 年度：普及員、平成 25 年度～学芸員〈嘱託〉）
- 7月18日-11月29日：特別展（第 34 回）「恐竜・絶滅ワニ展」
- 9月4日：入館者 50 万人達成記念事業
- 9月12日-9月30日：穂別恐竜化石発掘補足調査（第三次発掘）



恐竜デー（2015. 8. 15）



化石採集会（2015. 7. 4）



ホベツアラキリュウ荒木標本



ホベツアラキリュウ荒木標本受領式（2015. 5. 30）

施設の概要

【位 置】

北海道勇払郡むかわ町穂別 80 番地 6

平成 21 年度：展示映像機器整備

「太古の海－クビナガリュウからのメッセージ」

事業費：4,116,000 円（消費税込）

【町立博物館】

〔構造規模〕

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：1,100m²

常設展示室	372.88m ²
特別展示室	99.08m ²
収蔵庫	86.56m ²
事務室	40.50m ²
研究室	31.50m ²
整理室	29.92m ²
学習展示室	184.75m ²
書庫	35.05m ²
共用部門	219.76m ²

〔工 期〕

昭和 56 年度～ 57 年度

〔総事業費〕

362,165,000 円

〔展示更新〕

平成 3 年度～平成 4 年度：博物館展示替え工事

事業費：99,910,000 円（消費税込）

平成 5 年度：マルチスライドイメージソフト制作

事業費：6,890,700 円（消費税込）

【かせき学習館】

〔構造規模〕

建築構造：鉄筋コンクリート平屋建

建築面積：325.89m²

事務室	56.70m ²
作業室	56.70m ²
書庫	14.04m ²
レプリカ室	12.15m ²
処理室	12.15m ²
展示物保管庫	162.00m ²
共用部門	12.15m ²

〔工 期〕

平成 7 年度

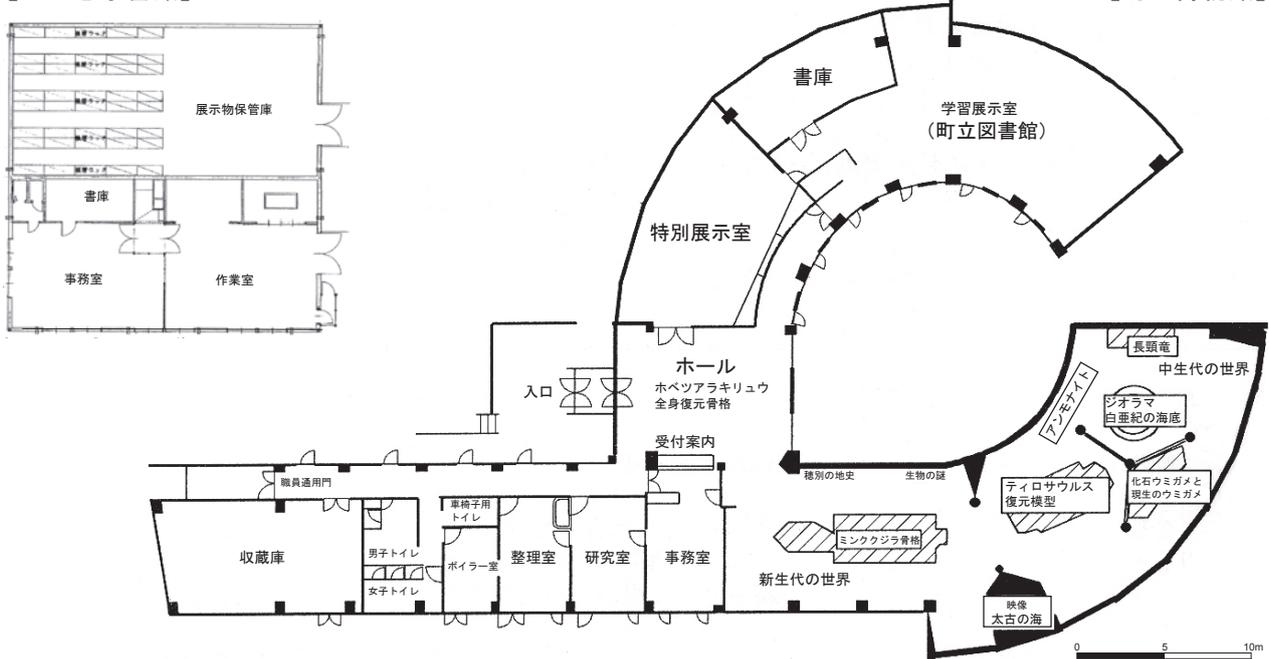
〔総事業費〕

57,092,900 円（消費税込み）

施設平面図

【かせき学習館】

【町立博物館】



展示活動

I 常設展示

主にむかわ町穂別地区から産出した動物化石を中心に、地質・化石資料やその復元模型を展示している。

【常設展示の変更】

- 12/8 新種モササウルス (HMG-1528 : *Phosphorosaurus ponpetelegans* ホロタイプ) の頭骨復元模型および生体復元画の展示
- 1/7 恐竜展示の修正 (スライドショーの追加)
- 1/8 ホベツアラキリュウ荒木標本レプリカ展示
- 3/11 アンモナイト3点追加 (HMG-1688、HMG-1689、HMG-1690)、2点撤去 (HMG-622、HMG-1252)

【常設展示資料】

種別		分類		点数	
化石	中生代	脊椎動物	魚類	10	48
			爬虫類 (恐竜 1、長頸竜 14 ^{**} 、モササウルス 14 ^{**} 、カメ 7、他 2)	38	
		軟体動物	頭足類 116、腹足類 9、斧足類 46、掘足類 1	172	
		その他動物	節足動物 7、棘皮動物 6、刺胞動物 3	16	
		植物		14	
	生痕		1		
	新生代	脊椎動物	魚類	4	24
			哺乳類 (クジラ 9、束柱類 2 ^{**} 、他 9 ^{**})	20	
		軟体動物	腹足類 25、斧足類 27、掘足類 4	56	
		その他動物	節足動物 3、棘皮動物 1	4	
植物		8			
現生生物	脊椎動物	爬虫類 (カメ)	3	11	
		哺乳類 (クジラ 5、他 3)	8		
	軟体動物	頭足類 2	2		
	その他動物	節足動物 1、棘皮動物 2、刺胞動物 2	5		
	植物		1		
岩石・鉱物				29	
復元模型	脊椎動物	爬虫類 3 (長頸竜 1、モササウルス 1、ウミガメ 1)、哺乳類 1	4		
その他	その他模型 3、映像 4	7			
合計				402	

(2016年3月31日現在) ※レプリカ含む

II 特別展示等

【ミニ展示】

- (1) 「北海道東部の白亜紀アンモナイト新研究～国立科学博物館収蔵資料 根室層群アンモナイト展示～」：平成 27 (2015) 年 4 月 1 日～5 月 31 日 論文として公表された、根室層群のアンモナイトに関する新たな研究成果の紹介。(展示資料提供：国立科学博物館)
- (2) 「穂別恐竜紹介展」：平成 27 (2015) 年 4 月 29 日～5 月 31 日 石膏ジャケットの紹介(石膏ジャケットの展示、ジャケット作成資材、化石の入った岩石、発掘道具)
- (3) 「ホベツアラキリュウ荒木標本」：平成 27 (2015) 年 5 月 30 日～ 寄贈されたホベツアラキリュウ荒木標本の展示

【特別展】

- (1) 「恐竜・絶滅ワニ展」：平成 27 (2015) 年 7 月 18 日～11 月 29 日 北大総合博物館所蔵のパラサウロロフス部分骨格とマチカネワニ全身復元骨格の展示、穂別の恐竜化石の紹介。

Ⅲ 年間入館者数

(単位：人)

分類		平成 23 年度 (2011)	平成 24 年度 (2012)	平成 25 年度 (2013)	平成 26 年度 (2014)	平成 27 年度 (2015)
個人	一般	5,853	5,491	6,483	7,278	6,727
	学生	2,415	2,050	2,527	2,611	2,218
団体	一般	669	808	525	684	414
	学生	1,045	767	559	378	383
計		9,982	9,116	10,307	10,951	9,742
幼児		1,508	1,375	1,583	1,690	1,621
合計		11,490	10,491	11,890	12,641	11,363

個人：割引入館者（穂別地球体験館との共通利用割引）と無料入館者（特定入館日、減免等）を含む。

団体：10名以上、一般：高校生より上、学生：小学生～高校生、幼児：小学生未満（無料）

広報活動

I 博物館広報活動

【ホッピーだより（博物館広報紙）】

A4版両面。博物館からのお知らせ、行事予定を掲載。ホームページで公開し、町内の公共施設や学校等へ配布。

365号<平成27年(2015)年4月> ミニ企画展北海道東部の白亜紀末アンモナイト新研究 ～国立科学博物館収蔵資料 根室層群産アンモナイト展示～

366号<平成27年(2015)年5月> 2015年ホベツアラキリュウ発見40周年ーホッピーがもたらしたものの②ー/2014(平成26)年度の寄贈資料・研究報告第30号を発行しました

367号<平成27年(2015)年6月> 2015年ホベツアラキリュウ発見40周年ーホッピーがもたらしたものの③ー/化石採集会 参加者募集・最近の主な寄贈資料の紹介

368号<平成27年(2015)年7月> ホベツアラキリュウ荒木標本(最初に発見された標本)の穂別博物館への寄贈/特別展「恐竜・絶滅ワニ展」・恐竜デー2015

369号<平成27年(2015)年8月> 「恐竜・絶滅ワニ展」の紹介/博物館収蔵資料の紹介14 白亜紀セノマニアン期前期のアンモナイト

370号<平成27年(2015)年9月> 2015年ホベツアラキリュウ発見40周年ーホッピーがもたらしたものの④ー/2015年 恐竜化石発掘現場見学ツアー参加者募集

371号<平成27年(2015)年10月> 日本の恐竜/博物館収蔵資料の紹介15 白亜紀末のアンモナイト パキディスカス・グラシリス *Pachydiscus gracilis*・入館者50万人達成

372号<平成27年(2015)年11月> 2015年むかわ

町穂別産恐竜第三次発掘報告/普及講演会 世界の恐竜研究 最前線!!

373号<平成27年(2015)年12月> 2015年の調査研究などでの来館者

374号<平成28年(2016)年1月> 新種モササウルス類フォスフォロサウルス・ポンペテレガンスを発表①/「世界の恐竜研究 最前線!!」を実施しました

375号<平成28年(2016)年2月> 新種モササウルス類フォスフォロサウルス・ポンペテレガンスを発表②

376号<平成28年(2016)年3月> 新種モササウルス類フォスフォロサウルス・ポンペテレガンスを発表③/研究報告第31号を発行しました

【博物館ホームページ】

ホッピーだよりなど随時更新した。

アドレス <http://www.town.mukawa.lg.jp/1908.htm>

【むかわ町穂別博物館ブログ】

行事予定など随時更新した。

アドレス <http://pomu.town.mukawa.lg.jp/module/1550.htm>

#moduleid1550 (むかわ町ポータルサイト POMU 内)

II 報道関係

【恐竜化石関連】

※以下に記した以外にもインターネットで多数配信された

(1) 恐竜化石クリーニング作業公開

会见日 平成27年(2015)年4月23日 14:00-15:00

取材場所 むかわ町立穂別博物館・かせき学習館作業

場

公開内容 前年度に公表した頭骨の一部（上顎骨）を含むノジュールの近くに位置するジャケットを新たに開封し、クリーニング作業を開始。

説明者 むかわ町立穂別博物館 館長 加藤英樹、学芸員 櫻井和彦、学芸補助員 高橋孝 ほか

参加者

テレビ局：NHK 苫小牧報道室

新聞社：北海道新聞社、読売新聞社、苫小牧民報社、室蘭民報社

その他：町広報担当（地域おこし協力隊太田晶）

<テレビ>

①平成 27(2015) 年 4 月 23 日 20:45 ～ (1 分間程度)
NHK 総合「恐竜化石クリーニング作業紹介」

<新聞>

①平成 27(2015) 年 4 月 24 日 読売新聞／朝／第 34 面／道総合 「化石クリーニング公開 恐竜の頭骨発見に期待」

②平成 27(2015) 年 4 月 25 日 北海道新聞／朝／31 面／苫小牧・日高 「穂別博物館クリーニング作業公開」

③平成 27(2015) 年 4 月 25 日 苫小牧民報／2 面 「恐竜化石クリーニング作業公開」

(2) アンソニー・フィオリロ Anthony R. Fiorillio 博士(アメリカ・ペロー自然史博物館学芸員) 来町
平成 27 年 (2015) 年 4 月 11 日

<新聞>

①平成 27(2015) 年 4 月 13 日 苫小牧民報／2 面 「米国のペロー自然科学博物館学芸員 むかわ町長を表敬訪問」

②平成 27(2015) 年 4 月 14 日 北海道新聞／夕／11 面／苫小牧 「米国の研究者らが分析 穂別の恐竜『貴重』」

③平成 27(2015) 年 4 月 14 日 苫小牧民報／2 面 「米学芸員 恐竜クリーニングなど進捗状況を調査」

(3) 石膏ジャケット開封作業の公開

平成 27(2015) 年 4 月 23 日

<新聞>

①平成 27(2015) 年 4 月 24 日 読売新聞／朝／第 34 面／道総合 「化石クリーニング公開 恐竜の頭骨発見に期待」

②平成 27(2015) 年 4 月 25 日 苫小牧民報／2 面 「恐竜化石クリーニング作業公開」

③平成 27(2015) 年 4 月 25 日 北海道新聞／朝／31 面／苫小牧・日高 「穂別博物館クリーニング作業公開」

<テレビ>

①平成 27(2015) 年 4 月 23 日 20:45 ～ (1 分間程度)

NHK 総合「恐竜化石クリーニング作業紹介」

(4) 恐竜化石ミニ展示の紹介

<新聞>

①平成 27(2015) 年 5 月 4 日 苫小牧民報／2 面 「恐竜化石のジャケットなど展示」

(5) 特別展・恐竜デー

<新聞>

①平成 27(2015) 年 7 月 17 日 苫小牧民報／2 面 「恐竜・絶滅ワニ展と恐竜デー」

②平成 27(2015) 年 7 月 18 日 北海道新聞／第 31 面／苫小牧・日高 「ワニ、恐竜迫力の復元骨格」

③平成 27(2015) 年 7 月 30 日 室蘭民報／11 面／東胆振・日高 「穂別博物館で恐竜・絶滅ワニ展」

④平成 27(2015) 年 8 月 18 日 苫小牧民報／2 面 「恐竜化石バックヤードツアーが好評」

(6) 恐竜化石発掘現場見学ツアー

<新聞>

①平成 27(2015) 年 9 月 2 日 朝日新聞／27 面／道内 「情報くりっぶ むかわ町穂別・恐竜化石発掘現場見学ツアー」

②平成 27(2015) 年 9 月 13 日 北海道新聞／34 面／道央面 「頭骨発見の穂別 発掘現場ツアー始まる」

③平成 27(2015) 年 9 月 15 日 室蘭民報／12 面／東胆振・日高 「新種の可能性高い恐竜 発掘現場一般公開」

④平成 27(2015) 年 9 月 15 日 苫小牧民報／2 面 「恐竜化石発掘現場見学ツアー始まる」

⑤平成 27(2015) 年 9 月 16 日 毎日新聞 「むかわ 恐竜化石発掘現場見学ツアー始まる」

⑥平成 27(2015) 年 9 月 19 日 朝日新聞／25 面／道内 「むかわで発掘現場見学ツアー」

(7) 普及講演会

平成 27(2015) 年 11 月 28 日

<新聞>

①平成 27(2015) 年 11 月 10 日 北海道新聞／朝／27 面／苫小牧・日高 「恐竜研究の最前線学ぼう 28 日むかわで講演会」

②平成 27(2015) 年 11 月 29 日 北海道新聞／朝／28 面／道央 「穂別の恐竜化石は宝 北大・小林准教授ら講演」

③平成 27(2015) 年 11 月 30 日 朝日新聞／朝／27 面／道内 「穂別で最新の研究講演」

④平成 27(2015) 年 11 月 30 日 苫小牧民報／17 面／第 1 社会面 「講演会世界の恐竜研究最前線 小林北大准教授とカナダのカリー教授が講演」

- ⑤平成27(2015)年12月1日 室蘭民報／12面／東胆振・日高「保存状態いい穂別の標本 恐竜研究者2氏が講演」
- ⑥平成27(2015)年12月1日 読売新聞／朝／33面／道南「穂別の化石 世界の宝」

<広報むかわ>

- ①No.118 <平成28(2016)年1月1日> p6「穂別の恐竜化石の素晴らしさ再認識」
- (8) 国立科学博物館 恐竜博2016

<新聞>

- ①平成28(2016)年3月31日 苫小牧民報／2面／「むかわ恐竜化石の大腿骨や発掘道具など 東京の博物館で展示中」

(9) 恐竜関連その他

<新聞>

- ①平成27(2015)年4月2日 北海道新聞／朝／28面／苫小牧「恐竜で地域振興 協力隊員に太田さん」
- ②平成27(2015)年4月3日 苫小牧民報／2面「地域おこし協力隊員 太田さんに辞令交付」
- ③平成27(2015)年5月2日 苫小牧民報／2面「むかわ町四季の館 恐竜化石PRコーナー」
- ④平成27(2015)年6月25日 苫小牧民報／17面／特集「恐竜化石でまちづくり 全身骨格の価値広くアピール」
- ⑤平成27(2015)年8月16日 本経済新聞／23面／サイエンス「巨大恐竜日本に眠る？」
- ⑥平成27(2015)年10月10日 室蘭民報／12面／恐竜の郷 穂別の変遷①「発見 ホベツアラキリュウ」
- ⑦平成27(2015)年10月14日 室蘭民報／11面／恐竜の郷 穂別の変遷②「念願 博物館入館50万人突破」
- ⑧平成27(2015)年10月15日 室蘭民報／11面／恐竜の郷 穂別の変遷③「興奮 発掘現場を初めて公開」
- ⑨平成27(2015)年10月17日 室蘭民報／12面／恐竜の郷 穂別の変遷④「至宝 世界クラスの発掘に成功」
- ⑩平成27(2015)年11月8日 北海道新聞／朝／17面／生活・親と子サンデー「不思議 恐竜の世界」
- ⑪平成28(2016)年1月20日 室蘭民報／「『恐竜ワールド』構想策定へ」
- ⑫平成28(2016)年3月14日 毎日小学生新聞／4面／恐竜さんぽ43 むかわ町穂別博物館「日本初の恐竜全身骨格!？」(小林快次)

- ⑬平成28(2016)年3月15日 苫小牧民報／2面／「町民一体でまちづくり推進 恐竜ワールド構想でまち耕し」

- ⑭平成28(2016)年3月15日 室蘭民報／12面／東胆振・日高／「恐竜ワールド構想推進」

- ⑮平成28(2016)年3月23日 北海道新聞／31面／おさんぽ北海道113 恐竜の里・むかわ町穂別地区「太古のロマン 堪能を」

- ⑯平成28(2016)年3月31日 北海道新聞／朝／31面／苫小牧・日高／「むかわ『恐竜ワールド』構想発進」

<広報紙等>

- ①平成27(2015)年10月1日 道博協ニュース(北海道博物館協会発行)第115号「むかわ町穂別での恐竜発見とまちづくり」(西村智弘)

<出版物等>

- ①ナショナルジオグラフィック日本版「小林快次『謎の恐竜』の正体を突き止めた男」日経ナショナルジオグラフィック社(第21巻4号)平成27(2015)年3月30日発売
- ②小学館 恐竜クイズブック 平成27(2015)年6月22日発行
- ③株式会社KADOKAWA「恐竜は滅んでいない」著・小林快次 平成27(2015)年7月10日発行
- ④学研 なぜ?の図鑑 恐竜 平成27(2015)年8月2日発行
- ⑤築地書館株式会社「日本の白亜紀・恐竜図鑑」平成27(2015)年8月8日発行
- ⑥株式会社技術評論社「生物ミステリーPRO 白亜紀の生物(上巻)」平成27(2015)年9月10日発行
- ⑦株式会社ニュートンプレス「韓国版Newton」<「恐竜の姿がよみがえるまで『穂別恐竜』の発掘と『丹波竜』の復元を追う(日本版2015年1月号の翻訳)>平成28(2016)年2月1日発行
- ⑧学校図書株式会社 中学校科学1「科学の窓 日本の恐竜」(p.257)平成28(2016)年2月10日発行
- ⑨「恐竜・化石研究所」実行委員会(名古屋市科学館特別展図録)<コラム02 北海道むかわ町穂別での恐竜発掘>(西村智弘・櫻井和彦)ほか

<特集番組>

- ①プロフェッショナル 仕事の流儀「若き化石ハンター太古の謎に挑む 恐竜学者・小林快次」(NHK総合)平成27(2015)年9月7日22:00-22:48

【モササウルス研究】

(1) モササウルス研究者の来訪

会見日 平成 27(2015) 年 4 月 25 日 14:00-15:00

来訪者 マイケル・コールドウェル教授 (Michael W. Caldwell : カナダ・アルバータ大学)、小西卓哉博士 (カナダ・ブランドン大学)、大学院生 (アルバータ大学) 2 名

来訪目的

- ①穂別博物館所蔵のモササウルス化石標本の調査
- ②モササウルス穂別第 10 標本の研究論文作成 (小西博士)

会見会場 穂別博物館

参加者

新聞社 : 読売新聞社、苫小牧民報社
その他 : 町広報担当 (地域おこし協力隊太田氏)

成果

<新聞>

- ①平成 27(2015) 年 4 月 26 日 読売新聞/朝/第 33 面/道総合 「モササウルス化石研究者むかわ訪問 カナダから」
- ②平成 27(2015) 年 4 月 28 日 苫小牧民報/2 面 「コールドウェル博士と小西博士 化石標本の調査」

(2) 新種発表会見

会見日 平成 27(2015) 年 11 月 28 日 10:00-11:00

(解禁日 2015 年 12 月 8 日 5:00)

会見会場 穂別町民センター つつじホール

説明者

むかわ町役場 : 竹中喜之町長、阿部博之教育長、西村智弘学芸員、櫻井和彦学芸員、下山正美学芸補助員 (進行 : 加藤英樹博物館長)

参加者

テレビ局 : NHK 札幌室蘭放送局
新聞社 : 北海道新聞社、苫小牧民報社、室蘭民報社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

成果

<テレビ>

- ①平成 27(2015) 年 12 月 8 日 ~ (1 分間程度) NHK 総合

<新聞>

- ①平成 27(2015) 年 12 月 8 日 北海道新聞/朝/第 25 面/苫小牧・日高 「重要な発見 喜ぶ関係者」
- ②平成 27(2015) 年 12 月 8 日 北海道新聞/朝/第 29 面/第 3 社会面 「穂別のモササウルス新種」
- ③平成 27(2015) 年 12 月 8 日 苫小牧民報/第 1 面 「穂別 海生爬虫類化石は新種」
- ④平成 27(2015) 年 12 月 8 日 室蘭民報/第 1 面「モササウルス新種発見 学術誌に論文掲載」

⑤平成 27(2015) 年 12 月 8 日 室蘭民報/第 14 面/東胆振・日高「両眼視の『夜行性』 モササウルスの新種、泳ぎは苦手？」

⑥平成 27(2015) 年 12 月 8 日 朝日新聞/朝/第 28 面/道内 「海生爬虫類の新種、確認」

⑦平成 27(2015) 年 12 月 8 日 読売新聞/朝/第 34 面/道総合 「穂別モササウルスは新種」

⑧平成 27(2015) 年 12 月 11 日 苫小牧民報/第 2 面「モササウルスの新種 常設展示始まる」

<ラジオ>

① hello! HOKKS [新種モササウルス、化石の紹介] (AIR-G') <平成 28(2016) 年 1 月 8 日 18:00-18:55 のうちの 10 分間程度>

<広報むかわ>

① No. 118 <平成 28(2016) 年 1 月 1 日> 表紙「新種のモササウルス類 ; フォスフォロサウルス・ポンペテレガンスを発表」/本文 p10-11 「むかわ町産モササウルス類を、新種フォスフォロサウルス・ポンペテレガンスとして発表！」

<出版物等>

①株式会社誠文堂新光社「子供の科学 第 79 巻第 3 号」<KOKA TOPICS モササウルス類の新種は、夜行性!?!> 平成 28(2016) 年 2 月 10 日発行

【ホベツアラキリュウ】

ホベツアラキリュウ荒木標本の寄贈式

会見日 平成 27(2015) 年 5 月 30 日 11:00-11:30

会見会場 穂別博物館入口ホール

説明者 むかわ町 渋谷副町長
穂別博物館 西村智弘学芸員
来賓 荒木新太郎夫妻

参加者 :

新聞社 : 北海道新聞、苫小牧民報、室蘭民報、朝日新聞
その他 : 町広報担当 (地域おこし協力隊太田晶)
博物館協力会 : 副会長 滝川満夫、事務局長 山田正、小山タエ子、芥川紀子、村上隆
金本和弘室長、加藤英樹館長、櫻井学芸員、下山正美、藤江晃、中村正彦、高橋孝

成果

<新聞>

- ①平成 27(2015) 年 5 月 31 日 北海道新聞/朝/31 面/苫小牧・日高 「化石のマチの証 寄贈標本を穂別博物館に」
- ②平成 27(2015) 年 6 月 2 日 苫小牧民報/第 2 面 「ホベツアラキリュウ標本寄贈 むかわの荒木新太郎さん穂別博物館に」

- ③平成 27(2015) 年 6 月 2 日 室蘭民報／第 12 面／東胆振・日高 『化石のマチ』のきっかけ クビナガリュウ化石寄贈
- ④平成 27(2015) 年 6 月 14 日 朝日新聞／第 29 面／道内 「化石の里の原点公開」

【アンモナイト研究】

<新聞>

- ①平成 27(2015) 年 4 月 2 日 苫小牧民報／2 面 「むかわ町穂別博物館の西村学芸員 アンモナイト研究で論文発表」
- ②平成 27(2015) 年 4 月 4 日 読売新聞／朝／33 面／道南 「道東のアンモナイト化石 穂別博物館学芸員ら論文」
- ③平成 27(2015) 年 4 月 7 日 朝日新聞／朝／29 面／道内 「穂別博物館 論文発表機に企画展」

<刊行物>

- ①平成 27(2015) 年 9 月 日本古生物学会誌「化石」第 98 号 研究紹介 北海道厚岸湾地域産の“中期”～“後期”マーストリヒチアン期(白亜紀末)アンモナイトとそれらの生層序学的意義 重田康成(国立科学博物館)・西村智弘(むかわ町立穂別博物館)・荷福洸(INPEX)

【その他】

- (1) 来館者 50 万人

<新聞>

- ①平成 27(2015) 年 8 月 21 日 苫小牧民報／2 面 「もうすぐ来館者 50 万人」
- ②平成 27(2015) 年 9 月 5 日 北海道新聞／29 面／苫小牧・日高 「穂別博物館 50 万人達成」
- ③平成 27(2015) 年 9 月 7 日 苫小牧民報／2 面 「むかわ町立穂別博物館 入館 50 万人達成」

- (2) 化石採集会

<新聞>

- ①平成 27(2015) 年 9 月 3 日 朝日新聞／30 面／道内 「8000 万年前の化石み～つけた むかわで親子ら採集体験」

- (3) その他

<新聞>

- ①平成 27(2015) 年 6 月 25 日 苫小牧民報／13 面／道央圏特集 「地域連携で生かせ観光資源」
- ②平成 27(2015) 年 8 月 19 日 北海道新聞／28 面／小樽・後志 「道央夏空を行く⑦ 穂別博物館」
- ③平成 27(2015) 年 10 月 6 日 苫小牧民報(特集号第 2 部)／3 面 「厚真、むかわ、安平 古里の神秘次世代に」

<ラジオ>

- ①平成 27(2015) 年 4 月 16 日 12:15～(7 分間程度) STV ラジオ「生活情報バラエティ わくわくラジオ『北海道ふるさと魅力再発見 むかわ町』」

<出版物等>

- ①NHK 出版「生命大躍進」<生命の歴史が学べる博物館> 平成 27(2015) 年 7 月 10 日発行
- ②株式会社北海道ジェイ・アール・エージェンシー「JR 北海道車内誌 THE JR Hokkaido 2 月号・No. 336」<ほっかいどうイキモノート vol. 59【鶴川駅】古生物で注目の穂別を訪れ、白亜紀にタイムトリップ。> 平成 28(2016) 年 2 月 1 日発行

【広告等掲載】

【北海道じゃらん】(リクルート北海道じゃらん)

平成 24(2012) 年：5 月号、8 月号



恐竜化石第三次発掘 (2015. 9. 21)



恐竜化石発掘現場見学ツアー (2015. 9. 21)

教育普及活動

※利用者の区分は以下の通り

幼：小学生未満、小：小学生～高校生、大：一般

I 博物館事業（博物館の主催・共催事業）

【ミニ展示】

- (1) 「北海道東部の白亜紀アンモナイト新研究～国立科学博物館収蔵資料 根室層群アンモナイト展示～」

会期：平成 27(2015) 年 4 月 1 日～5 月 31 日

会場：穂別博物館 特別展示室

内容：論文として公表された、根室層群のアンモナイトに関する新たな研究成果の紹介。（展示資料提供：国立科学博物館）

- (2) 「穂別恐竜紹介展」

会期：平成 27(2015) 年 4 月 29 日～5 月 31 日

会場：穂別博物館 特別展示室

内容：石膏ジャケットの紹介（石膏ジャケットの展示、ジャケット作成資材、化石の入った岩石、発掘道具）

- (3) 「ホベツアラキリュウ荒木標本」

会期：平成 27(2015) 年 5 月 30 日～

会場：穂別博物館 入口ホール

内容：寄贈されたホベツアラキリュウ荒木標本の展示

【特別展】

- (1) 「恐竜・絶滅ワニ展」

会期：平成 27(2015) 年 7 月 18 日～11 月 29 日

会場：穂別博物館 特別展示室

内容：北大総合博物館所蔵のパラサウロロフス部分骨格とマチカネワニ全身復元骨格の展示、穂別の恐竜化石の紹介。

見学者数（会期中の入館者数）：5,800 人

【町民文化祭】

- (1) 第 59 回むかわ町穂別地区町民文化祭へ出展

会期：平成 27(2015) 年 10 月 16 日～18 日

会場：穂別町民センター 多目的ホール

内容：恐竜化石の紹介

【共催展】

- (1) 新種モササウルス化石 PR コーナー

主催：むかわ町役場地域振興課企画管理 G

会期：平成 28(2016) 年 1 月 6 日～3 月 31 日

会場：道の駅むかわ四季の館

内容：新種モササウルスの紹介。1 月 6 日～18 日はホロタイプのレプリカを展示。

【普及講演会】

- (1) 「世界の恐竜研究 最前線!!」

日時：平成 27(2015) 年 11 月 28 日 13:30-16:30

講師・題名

小林快次准教授「恐竜発掘調査最前線」

フィリップ・カリー教授「カナダ恐竜発見からわかる超最新恐竜研究」

会場：穂別町民センター 多目的ホール

参加者：150 人

【化石採集会】

学芸員による展示案内の後、白亜紀の地層が露出している場所で化石を採集する。毎回会場を変えて実施した。各回定員 20 名。事前申込・抽選で選出した。

観覧料（「運営」を参照）と体験参加料（一人 100 円）を徴収。終了後に希望者を対象に自分で見つけた化石のクリーニング体験を実施した。（実施協力：穂別博物館協力会、地域おこし協力隊恐竜隊）

参加人数計：42 人

第 1 回＜平成 27(2015) 年 7 月 4 日＞（小 7・大 10）
安住幌去沢

第 2 回＜平成 27(2015) 年 7 月 11 日＞（小 2・大 2）
稲里シュッタノ沢

第 3 回＜平成 27(2015) 年 8 月 22 日＞（小 3・大 4）
稲里ソソシ沢

第 4 回＜平成 27(2015) 年 8 月 29 日＞（小 5・大 9）
富内トサノ沢

【恐竜発掘現場見学ツアー】

恐竜化石補足調査（第三次発掘）に合わせて発掘現場および発掘調査の様子を公開した。各回定員 24 名。事前申込・抽選で選出した。

観覧料（「運営」を参照）を徴収した。

参加人数計：87 人

(1) 平成 27(2015) 年 9 月 12 日午前（小 0・大 3）

(2) 平成 27(2015) 年 9 月 12 日午後（小 0・大 4）

(3) 平成 27(2015) 年 9 月 13 日午前（小 1・大 2）

(4) 平成 27(2015) 年 9 月 13 日午後（参加者なし）

(5) 平成 27(2015) 年 9 月 19 日午前（小 2・大 2）

(6) 平成 27(2015) 年 9 月 19 日午後（小 0・大 1）

(7) 平成 27(2015) 年 9 月 20 日午前（小 2・大 4）

(8) 平成 27(2015) 年 9 月 20 日午後（小 1・大 3）

- (9) 平成 27(2015) 年 9 月 21 日午前 (小 5・大 4)
- (10) 平成 27(2015) 年 9 月 21 日午後 (小 0・大 5)
- (11) 平成 27(2015) 年 9 月 22 日午前 (小 1・大 2)
- (12) 平成 27(2015) 年 9 月 22 日午後 (小 9・大 13)
- (13) 平成 27(2015) 年 9 月 23 日午前 (小 3・大 11)
- (14) 平成 27(2015) 年 9 月 23 日午後 (小 1・大 8)

【恐竜デー 2015】

化石体験コーナーとして「恐竜デー 2015」を夏休み時期に実施した。

<実施内容>

①恐竜が産した露頭(崖)の岩石プレゼント:約7,200 万年前の岩石を、博物館受付窓口にて各日先着 200 名に配布。

②恐竜化石バックヤードツアー:恐竜化石についての説明、石膏ジャケットの紹介、クリーニング作業の見学。主としてかせき学習館で実施。各日の 11:00、12:00、13:00、14:00 に実施。

③化石レプリカづくり:穂別博物館展示資料の石こう模型づくり。オリジナル解説シート付き。有料(1 個 100 円)。アースギャラリーで実施。各日の 10:00、15:00 に実施。

<開催日・体験人数>

- (1) 平成 27(2015) 年 7 月 18 日
 - ① 33 個、② 32 人、③ 25 個
 - (2) 平成 27(2015) 年 7 月 19 日
 - ① 61 個、② 65 人、③ 11 個
 - (3) 平成 27(2015) 年 7 月 20 日
 - ① 63 個、② 57 人、③ 10 個
 - (4) 平成 27(2015) 年 7 月 25 日
 - ① 31 個、② 38 人、③ 13 個
 - (5) 平成 27(2015) 年 7 月 26 日
 - ① 80 個、② 73 人、③ 11 個
 - (6) 平成 27(2015) 年 8 月 1 日
 - ① 64 個、② 25 人、③ 13 個
 - (7) 平成 27(2015) 年 8 月 2 日
 - ① 54 個、② 45 人、③ 20 個
 - (8) 平成 27(2015) 年 8 月 8 日
 - ① 74 個、② 31 人、③ 5 個
 - (9) 平成 27(2015) 年 8 月 9 日
 - ① 83 個、② 61 人、③ 30 個
 - (10) 平成 27(2015) 年 8 月 15 日
 - ① 95 個、② 78 人、③ 33 個
 - (11) 平成 27(2015) 年 8 月 16 日
 - ① 171 個、② 102 人、③ 19 個
- 計 ①岩石プレゼント:809 個
②恐竜化石バックヤードツアー:607 人

③化石レプリカづくり:190 個

【化石レプリカづくり教室】

冬休み、春休みにレプリカづくり教室を開催。粘土で型を制作して石膏でレプリカを作成、シリコン型を用いて石膏でレプリカを作成、レプリカアクセサリーを作成した。材料費一人 100 円。定員 20 人。

- (1) 平成 27(2015) 年 12 月 26 日:5 人
- (2) 平成 28(2016) 年 1 月 9 日:3 人

【ワークシート等】

来館者を対象に、博物館展示室に各種シートを設置。自由参加のため、数は確認していない。

- ①博物館探検シート:クイズ形式で、展示室の化石について学ぶ(全 4 枚)。
- ②ミニジオラマ(クビナガリュウの海):着色・切り抜いて、自分で作成するジオラマの型紙。穂別の化石が題材。

II 運営協力等

【講師派遣】

- (1)九州大学総合研究博物館 公開展示「地球-人と自然 恐竜発掘最前線」
公開講演「恐竜発掘最前線!」
日程:平成 27(2015) 年 11 月 21 日
主催:九州大学総合研究博物館
会場:九州大学総合研究博物館
講師:西村智弘学芸員
小林快次准教授(北海道大学総合博物館)
参加者:186 人

【学術協力】

- (1)国立科学博物館 恐竜博 2016
内容:展示資料の貸し出し、映像・画像等の貸し出し、穂別恐竜の展示監修
展示会日程:平成 28(2016) 年 3 月 8 日-6 月 12 日
主催:国立科学博物館、朝日新聞社、テレビ朝日
会場:国立科学博物館
対応:穂別恐竜の展示監修等 平成 28(2016) 年 3 月 3 日-4 日(西村学芸員対応)

Ⅲ 団体等の利用

館として対応したものは<>内に内容を示した

Ⅲ-1 町内団体等の利用

【町内学校・教育関係団体】 7件・91人

平成27(2015)年5月

- 21日 むかわ町教育研究会(理科) <展示見学・化石クリーニング見学> (大3)

平成27(2015)年6月

- 9日-11日 穂別高校インターンシップ<職場体験> (小2)

平成27(2015)年9月

- 29日 穂別小学校4年化石学習①<発掘現場見学> (小20・大3)

平成27(2015)年10月

- 1日 穂別小学校4年化石学習②<展示見学> (小17・大2)
7日 穂別小学校4年化石学習③<化石クリーニング・レプリカづくり> (小20・大2)
20日-21日 穂別中学校2年生(職場体験) (小3)
21日 穂別高校(総合的な学習の時間) <出前授業・展示見学・化石採集> (小17・大2)

【町内各種団体】 8件・98人

平成27(2015)年5月

- 1日 恐竜化石を活かしたまちづくりWG <化石クリーニング見学、展示見学> (大12)
20日 さくら保育園(幼14・大3)
21日 むかわ町職員新人研修<展示見学> (大6)

平成27(2015)年6月

- 14日 穂別地域自治会地域協議会 模擬ツアー<展示見学> (大20)

平成27(2015)年9月

- 1日 むかわ町自治会町内会連合会 研修会<展示見学・発掘現場見学> (大15)
4日 まちづくり委員会恐竜専門部会 視察<展示見学> (大8)

平成28(2016)年1月

- 28日 むかわ町女性農業者研修会<展示見学> (大12)

平成28(2016)年3月

- 19日 むかわ町商工会青年部<展示見学> (大8)

Ⅲ-2 町外団体の利用

【町外学校・教育関係団体】 11件・394人

平成27(2015)年4月

- 18日 日高小学校教諭<化石クリーニング作業見学> (大1)

平成27(2015)年5月

- 16日 恵庭市青少年研修センター(小32・大8)

平成27(2015)年7月

- 3日 苫小牧市立清水小学校5年生(交流人口拡大推進協議会より依頼) <展示見学・化石採集> (小16・大4)

平成27(2015)年8月

- 10日 仙台三桜高校(小9・大1)
25日 日高小学校1年生<展示見学> (小10・大2)

平成27(2015)年9月

- 4日 江別市上江別小学校5年生(小131・大9)
9日 夕張市立夕張小学校(小34・大5)
11日 千歳市立東小学校5・6年生(小10・大3)

平成27(2015)年10月

- 1日 富川ひばり幼稚園(幼41・大3)
2日 富川ひばり幼稚園(幼29・大3)
6日 富川ひばり幼稚園(幼39・大4)

【町外各種団体】 25件・556人

平成27(2015)年6月

- 7日 当別町若葉長栄会(高齢者クラブ)(大26)
28日 室蘭イタンキ ビオトープ<展示見学> (大28)

平成27(2015)年7月

- 4日 砺波市市民交流団<展示見学> (大18)
12日 胆振管内商工会女性部<展示見学> (大67)
19日 苫小牧マユミの会(大12)
23日 むすびば十勝(小8・大4)

平成27(2015)年8月

- 2日 アメリカ北海道観光プロモーション視察<展示見学> (大6)
6日 砺波市むかわ町高校野球交流事業関連視察<展示見学> (大13)
7日 岩見沢市花と緑の少年団(小25)
8日 砺波市姉妹都市交流団(小50・大7)
12日 胆振総合振興局 戦略策定支援担当部長・地域政策部主事<発掘現場視察> (大2)
16日 札幌市清田区子ども会(小54・大13)
19日 鶴川・沙流川 WAKUWAKU 協議会<展示見学> (大17)

平成 27(2015) 年 9 月

- 8 日 千歳山歩会 (高齢者グループ) (大 13)
- 13 日 株式会社シービーツアーズ (小 1・大 13)
- 29 日 札幌宮の沢長栄会 (大 22)

平成 27(2015) 年 10 月

- 2 日 平成 27 年度胆振婦人団体連絡協議会理事研修会<展示見学・アンモナイトストラップづくり> (大 12)
- 15 日 ひまわり保育所 (幼 15・大 3)
- 20 日 厚別理容組合 (大 13)
- 21 日 株式会社ノーザンクロス (大 25)
- 21 日 砺波市姉妹都市交流団 (大 15)
- 28 日 株式会社ノーザンクロス<展示見学> (大 25)

平成 28(2016) 年 1 月

- 31 日 株式会社ノーザンクロス<展示見学> (大 10)

平成 28(2016) 年 2 月

- 14 日 株式会社ノーザンクロス<展示見学> (大 24)
- 18 日 株式会社ノーザンクロス<展示見学> (大 15)

【研修等】

平成 27(2015) 年 7 月

- 2 日-3 日 京都大学大学院 地質巡検<展示見学・地質見学> (大 12)

平成 27(2015) 年 8 月

- 26 日 茨城大学 安藤寿男教授・学生<展示見学> (大 7)

【取材等】

平成 27(2015) 年 4 月

- 4 日 NHK 札幌放送局<展示見学> (大 1) : 番組取材下見

平成 27(2015) 年 6 月

- 9 日 むかわ町観光協会事務局ほか<展示見学> (大 4) : 観光案内パンフレット用写真撮影下見

平成 27(2015) 年 11 月

- 27 日 新岡薫 (エトブン社) ほか<展示見学・恐竜化石発掘現場の見学> (大 2) : JR 車内誌の取材

- 27 日 望月芳子 (日本児童文学者協会) <展示見学・恐竜化石発掘現場の見学> (大 1) : 小林快次准教授半生記執筆の取材

平成 28(2016) 年 3 月

- 7-8 日 NHK エンタープライズ<取材> (大 3) : 番組制作のための映像収録

- 11 日 北海道新聞社記者・カメラマン<展示見学・撮影> (大 2) : 新聞記事取材



穂別小学校 4 年化石学習 (2015. 10. 7)



穂別高校化石学習 (2015. 10. 21)

収蔵資料概要 (登録資料)

【自然史系登録資料 (HMG)】(地質・化石資料) 1,651 点
【自然系登録資料 (HMB)】(現生動植物資料) 167 点
【人文系登録資料 (HMC)】(民俗・歴史資料) 3,761 点 計 5,579 点 (2016. 3. 31. 現在)

【町指定文化財】 HMG-1「ホベツアラキリュウ化石骨」: むかわ町指定文化財登録番号第3号

【タイプ標本】

HMG-12 : *Mosasaurus hobetsuensis* Suzuki, 1985 のホロタイプ (新種)
HMG-387 : *Kentriodon hobetsu* Ichishima, 1994 のホロタイプ (新種)
HMG-5 : *Mesodermochelys undulatus* Hirayama and Chitoku, 1996 のホロタイプ (新属新種)
HMG-1065 : *Mosasaurus prismaticus* Sakurai et al., 1999 のホロタイプ (新種)
HMG-1056 : *Anomalochelys angulata* Hirayama et al., 2001 のホロタイプ (新属新種)
HMG-1573 : *Gaudryceras hobetsense* Shigeta and Nishimura, 2013 のホロタイプ (新種)
(パラタイプ : HMG-134、HMG-1592)
HMG-1587a,b,c,d : *Phylloptychoceras horitai* Shigeta and Nishimura, 2013 のホロタイプ・パラタイプ (新種)
HMG-136 : *Anagaudryceras compressum* Shigeta and Nishimura, 2014 のホロタイプ (新種)
(パラタイプ : HMG-1594、HMG-1595、HMG-1596、HMG-1597、HMG-1626)
HMG-1528 : *Phosphorosaurus ponpetelegans* Konishi et al. のホロタイプ (新種)

資料収集保存活動

I 野外調査活動

【現地調査】 12回 (恐竜化石発掘関連を除く)

うち、外部研究者等 (研) と合同調査 : 1回

4月 : 24、25 (研)

5月 : 13、29

6月 : 4、5、12、18、19、25、26

11月 : 5

II 新規受入資料

II-1 寄贈

受入番号 : 寄贈資料 / 点数 / 寄贈者名 (敬称略)

【自然史系資料】 (35件・114点)

2015-001 : コケムシ、腕足類化石 / 1 / 柳田透 (せたな町)

2015-002 : フズリナ化石 (印象) *Monodiexodina matsubaishi* / 1 / 柳田透 (せたな町)

2015-003 : ベレロフォン (巻貝) / 1 / 柳田透 (せたな町)

2015-004 : アンモナイト *Sharpeiceras* sp. / 1 / 服部義

幸 (千歳化石会・札幌市)

2015-005 : アンモナイト *Jimboiceras planulatiforme* / 1 / 服部義幸 (千歳化石会・札幌市)

2015-006 : アンモナイト *Anagaudryceras compressum*、*Damesites hetonaiensis* / 2 / 大和治生 (札幌市)

2015-007 : アンモナイト *Gaudryceras hamanakense*(2)・腕足類化石 (1) / 3 / 中下春雄 (浜中町)

2015-008 : クビナガリュウ化石 / 1 / 荒木新太郎 (むかわ町)

2015-009 : アンモナイト *Gaudryceras hamanakense* (2)・二枚貝 (2)・腕足類 (2) / 6 / 中下春雄 (浜中町)

2015-010 : 脊椎動物化石 (骨) / 1 / 松岡廣繁 (京都大学)

2015-011 : 植物化石 *Nilsonia yezoensis* 含有岩石 / 1 / 松岡廣繁 (京都大学)

2015-012 : 正体不明化石 / 1 / 水谷和弘 (平取町)

2015-013 : アンモナイト *Damesites* sp. / 1 / 高梨雅弘 (羽幌町)

2015-014 : アンモナイト *Mesopuzosia pacifica* / 1 / 常國万吉 (岩見沢市)

2015-015 : アンモナイト *Mesopuzosia* sp. / 1 / 常國万吉 (岩見沢市)

2015-016 : アンモナイト *Mesopuzosia* cf. *yubarensis* / 1

／常國万吉（岩見沢市）

2015-017：アンモナイト *Anapachydiscus* sp. / 1 / 長谷川浩二・松田昇一（三笠市）

2015-018：アンモナイト *Yezoceras* sp. / 1 / 長谷川浩二（三笠市）

2015-019：アンモナイト *Damesites hetonaiensis* / 1 / 大和治生（札幌市）

2015-020：アンモナイト *Damesites hetonaiensis* / 1 / 大和治生（札幌市）

2015-021：穿孔性二枚貝 / 1 / 大和治生（札幌市）

2015-022：アンモナイト *Damesites hetonaiensis* / 1 / 堀田良幸（むかわ町）

2015-023：アンモナイト *Anapachydiscus* sp. / 1 / 鈴木剛（苫小牧市）

2015-031：化石含有ノジュール / 71 / 堀田良幸（むかわ町）

2015-032：タカハシホタテ *Fortipecten takahashii*（滝川産） / 1 / 田中三郎（滝川市）

2015-033：タカハシホタテ *Fortipecten takahashii*（沼田産） / 1 / 田中三郎（滝川市）

2015-036：真骨魚類化石 / 1 / 堀田良幸・堀田隼人（むかわ町）

2015-037：クビナガリュウ化石 / 1 / 岡島孝義（三笠市）

2015-038：ホベツアラキリュウ荒木標本レプリカ / 3 / 穂別博物館協力会

2015-039：イノセラムス *Inoceramus (Platyceramus)* cf. *japonicus* / 1 / 西村智弘（穂別博物館）

2015-040：イノセラムス *Inoceramus (Platyceramus)* *ezoensis* / 1 / 西村智弘（穂別博物館）

2015-041：イノセラムス *Sphenoceramus naunanni* / 1 / 西村智弘（穂別博物館）

2015-044：鞘形類顎器 / 1 / 堀田良幸（むかわ町）

2015-045：アンモナイト *Eupachydiscus* sp. / 1 / 野崎アヤ子（むかわ町）

2015-046：珪化木 / 1 / 野崎アヤ子（むかわ町）

【自然系資料】（0件・0点）

【人文系資料】（0件・0点）

【その他】（1件・1点）

2015-035：映像機器（上映モニター）一式 / 1 / 札幌ほべつ会（札幌市）

II - 2 採集

【自然系資料】（6件・478点）

2015-024：化石含有ノジュール・アンモナイト / 100（採集協力：穂別博物館協力会）

2015-026：化石含有ノジュール / 8

2015-027：化石含有ノジュール / 68（採集協力：穂別博物館協力会）

2015-028：穂別産恐竜化石（HMG-1219 追加資料） / 5

2015-029：穂別産恐竜化石共産化石（二枚貝・巻貝・アンモナイトなど） / 293

2015-030：化石含有ノジュール / 4

【自然系資料】（0件・0点）

【人文系資料】（0件・0点）

II - 3 移管

なし

II - 4 その他

<購入>

【自然系資料】（1件・1点）

2015-025：エドモントサウルス頭骨レプリカ / 1

<製作>

【自然系資料】（1件・3点）

2015-034：フォフフォロサウルス・ポンペテレガンス（HMG-1528）産状部位レプリカ（未登録資料） / 3（平成24年度に足寄動物化石博物館に作成委託）

III 新規登録資料

登録番号：資料名 / 受入番号 / 寄贈（採集）者名（敬称略）

【自然系資料（HMG）】（化石・地質）：16点

HMG-1677：ノジュール / 2009-007 / 狐塚 守

HMG-1678：エドモントサウルス頭骨レプリカ / 2015-025 / （購入）

HMG-1679：イノセラムス *Inoceramus (Platyceramus)* cf. *japonicus* / 2015-039 / 西村智弘

HMG-1680：イノセラムス *Inoceramus (Platyceramus)* *ezoensis* / 2015-040 / 西村智弘

HMG-1681：イノセラムス *Sphenoceramus naunanni* / 2015-041 / 西村智弘

HMG-1682：モササウルス類 *Phosphorosaurus ponpetelegans* ホロタイプ（HMG-1528）レプリカ（頭

骨組立) / 2015-034 / (製作)

HMG-1683: モササウルス類 *Phosphorosaurus ponpetelegans* ホロタイプ (HMG-1528) レプリカ (未組立・彩色1) / 2015-034 / (製作)

HMG-1684: モササウルス類 *Phosphorosaurus ponpetelegans* ホロタイプ (HMG-1528) レプリカ (未組立・彩色2) / 2015-034 / (製作)

HMG-1685: メソダーモケリス全身復元骨格 / 2015-042 / (常設展示室: 未受入資料)

HMG-1686: モササウルス類生体復元模型 / 2015-043 (常設展示室: 未受入資料)

HMG-1687: 鞞形類顎器 / 2015-044 / 堀田良幸

HMG-1688: アンモナイト *Anapachydiscus* sp. / 2015-017 / 長谷川浩二・松田昇一

HMG-1689: アンモナイト *Anapachydiscus* sp. / 2015-023 / 鈴木剛

HMG-1690: アンモナイト *Mesopuzosia pacifica* / 2015-014 / 常國万吉

HMG-1691: アンモナイト *Mesopuzosia* sp. / 2015-015 / 常國万吉

HMG-1692: アンモナイト *Mesopuzosia* cf. *yubarensis* / 2015-016 / 常國万吉

【自然系資料 (HMB)】(現生生物): 0点

【人文系資料 (HMC)】(生活・歴史等): 0点



普及講演会 (2015. 11. 28)

IV 収蔵資料の活用 (研究)

【調査・観察】

[自然史系資料 (HMG)] (2件・7点)

モササウルス化石 (HMG-12、HMG-371、HMG-1065、HMG-1288、HMG-1528): マイケル・コールドウェル Michael W. Caldwell (カナダ・アルバータ大学教授)、小西卓哉 (カナダ・ブランドン大学助教)、アルバータ大学博士課程後期学生 (ヘイリー・ストリート Hallie Street、ポーリーナ・ウイドブロ Paulina J. Huidobro) <平成 27(2015) 年 5 月 25 日 - 29 日>

長頸竜化石 (HMG-1、HMG-1067): 佐藤たまき (東京学芸大学准教授) <平成 27(2015) 年 8 月 25 日 - 30 日>

[人文系資料 (HMC)] (1件)

民族資料 (HMC-28 ほか): 吉本忍 (国立民俗学博物館名誉教授)

【貸出 (研究)】

[自然史系資料 (HMG)] (8件・27点)

HMG-366、HMG-367、HMG-1053、HMG-1054、HMG-1055 (ウミガメ化石 5点): 平山廉 (早稲田大学) <平成 6(1994) 年 8 月 17 日 - 平成 28(2016) 年 3 月 31 日>

HMG-1063、HMG-1064 (ウミガメ化石 2点): 平山廉 (早稲田大学) <平成 7(1995) 年 5 月 11 日 - 平成 28(2016) 年 3 月 31 日>

HMG-1443、HMG-1444 (カサガイ付きアンモナイト 2点): 加瀬友喜 (国立科学博物館) <平成 21(2009) 年 7 月 9 日 - 平成 28(2016) 年 3 月 31 日>

HMG-0399 (アンモナイト 1点): 前田晴良 (京都大学) <平成 23(2011) 年 10 月 17 日 - 平成 28(2016) 年 3 月 31 日>

HMG-0357 (長頸竜化石 1点): 佐藤たまき (東京学芸大学) <平成 23(2011) 年 11 月 25 日 - 平成 28(2016) 年 3 月 31 日>

HMG-1642 (コケムシ化石 1点): マシュー・ヒル・ディック (北海道大学) <平成 26(2014) 年 7 月 15 日 - 平成 28(2016) 年 3 月 31 日>

HMG-1 (長頸竜ホバツアラキリュウ: ①上腕骨、②大腿骨、③後部頸椎、④前部胴椎、⑤後部胴椎、⑥頸肋骨、⑦胴肋骨 (遠位端)、⑧胴肋骨 (骨体)、⑨胴肋骨 (近位端)、⑩腹肋骨)、HMG-1067 (長頸竜鳴原標本: ⑪前部頸椎、⑫前部胴肋骨、⑬後部胴肋骨、⑭大腿骨): 林昭次 (大阪市自然史博物館) <平成 27(2015) 年 10 月 27 日 - 平成 28(2016) 年 10 月 26 日>

HMG-1689 (鞆形類顎器 1点): 棚部一成 (東京大学総合博物館) <平成 28(2016)4月1日 - 平成 29(2017)4月1日>

V 収蔵資料の活用 (研究以外)

【貸出 (展示)】

[自然史系資料 (HMG)] (6件・83点)

アンモナイト (HMG-842)・イノセラムス (HMG-883)
計 2点: 穂別地球体験館<平成 7(1995)年 4月 1日 - 平成 28(2016)年 3月 31日>

ハドロサウルス科恐竜化石 (HMG-1219) 2点: 読売新聞大阪本社 (メガ恐竜展 2015) <平成 27(2015)年 7月 1日 - 9月 14日>

ハドロサウルス科恐竜化石 (右大腿骨)、恐竜化石入り石膏ジャケット (J4)、モササウルス・ホベツエンシス (レプリカ)、HMG-1680 (モササウルス第 10 標本レプリカ)、HMG-371 (ティロサウルス化石)、ティロサウルス復元模型、HMG-1476 (メソダーモケリス) 計 7点: 九州大学総合研究博物館 (展示) <平成 27(2015)年 11月 8日 - 11月 24日>

HMG-620、HMG-626 (アンモナイト)、HMG-1677 (ノジュール) 計 3点: 名古屋市科学館 (展示) <平成 28(2016)年 1月 6日 - 6月 30日>

HMG-1680 (フォスフォロサウルス レプリカ) 1点: 太田晶 (むかわ町地域おこし協力隊) (四季の館: 新種モササウルス PR 展示) <平成 28(2016)年 1月 6日 - 1月 19日>

ハドロサウルス科恐竜化石 (右大腿骨)、恐竜化石入り石膏ジャケット (J4)、恐竜化石入り岩石 48点、発掘調査道具 19点、計 69点: 国立科学博物館 恐竜博 2016 (展示) <平成 28(2016)年 3月 1日 - 6月 22日>

[人文系資料 (HMC)] (1件・1点)

ルウンペ (HMC-28) 計 1点: 穂別図書館 (展示) <平成 28(2016)年 2月 26日 - 28日>

【貸出 (普及教育)】

[自然史系資料 (HMG) 等] (4件・15点)

ハドロサウルス科恐竜化石の産状図: 佐藤たまき (東京学芸大学准教授) (中川町での普及講演会スライド用) <平成 27(2015)年 9月 3日>

ホベツアラキリュウ頭骨レプリカ、アンモナイト (HMG-1418、HMG-1419) 計 3点: 太田晶 (むかわ町地域おこし協力隊) (道の駅むかわ四季の館「夏の館まつり」) <平成 27(2015)年 8月 8日 - 10日>

メタセコイア化石 (2005-069) 2点: 太田晶 (むかわ町地域おこし協力隊) (ほべつ通学合宿ミニプログラム用) <平成 27(2015)年 10月 22日>

ホベツアラキリュウ頭骨レプリカ、アンモナイト (HMG-1418、HMG-1419、97-011、97-018、97-033、98-107、98-133、99-133) 計 9点: 太田晶 (むかわ町地域おこし協力隊) (放課後子供教室) <平成 27(2015)年 10月 28日 - 31日>

[自然系資料 (HMB)・人文系資料 (HMC)]

(HMB: 2件・22点、HMC: 3件・18点)

HMB-2、3、4、7、9、11、12、17、19、21、22、25、26、29、30、40、41、43、98、99 (剥製標本 20点): むかわ町立穂別小学校<平成 7(1995)年 4月 1日 - 平成 28(2016)年 3月 31日>

HMB-36、HMB-47 (剥製標本 2点)、HMC-2797、HMC-2798、HMC-2799、HMC-2821 (ジオラマ 4点) 計 6点: むかわ町立穂別小学校<平成 8(1996)年 6月 14日 - 平成 28(2016)年 3月 31日>

HMC-413、HMC-2643 (わらぐつ) 2点: 穂別小学校 (学芸会) <平成 27(2015)年 10月 7日 - 10月 20日>

HMC-417、HMC-1283 (みの)、HMC-385 (ロープ)、HMC-861、HMC-1731、HMC-2475 (カンジキ)、HMC-3468 (金矢)、HMC-525、HMC-691、HMC-2996、2000-063 (のこ)、HMC-512 (尻あて) 計 12点: 田んぼ de ミュージカル実行委員会 (映画製作) <平成 27(2015)年 12月 18日 - 平成 28(2016)年 2月 29日>

【写真提供等 (出版・報道等)】 (7件・12点)

ハドロサウルス科尾椎骨写真 (1点): ドウアンドドウプランニング株式会社 (小学館の図鑑 NEO+ POCKET 恐竜クイズブック) <平成 27(2015)年 4月 5日>

ホベツアラキリュウ全身骨格写真、オロロティタン骨格図、蝦夷層群の図 (計 3点): 株式会社インテリジェント・リンク (北海道庁事業「北海道歴史・文化ポータルサイト」) <平成 27(2015)年 4月 20日>

ハドロサウルス科恐竜の上顎骨断面写真、ハドロサウルス科恐竜の発掘現場写真 (計 2点): 学研教育出版 (ニューワイド学研の図鑑 i シリーズ「なぜ? の図鑑 恐竜」) <平成 27(2015)年 8月 2日>

ホベツアラキリュウ全身骨格写真、モササウルス類復元模型写真 (計 2点): 凸版印刷株式会社 (胆振地区 PR パンフレット) <平成 27(2015)年 10月>

クビナガリュウホッピーイラスト、HOBETSU MUSEUM マーク (計 2点): 北海道胆振総合振興局 (胆振 PR 事業) <平成 27(2015)年 11月 20日>

恐竜化石発掘現場写真 (第一次発掘) (1点): むかわ

町建設水道課上下水道G 佐藤琢主査（公益社団法人 日本下水道協会「都市だより2月号」）＜平成28(2016)年1月14日＞

恐竜化石発掘現場写真（第一次発掘）（1点）：毎日小学生新聞「恐竜さんぽ」（小林快次北海道大学総合博物館准教授執筆）＜平成28(2016)年3月14日掲載＞

VI その他収蔵資料管理

平成27(2015)年5月30日 ホベツアラキリュウ荒木標本受領式（寄贈資料の受入）

会場 穂別博物館入口ホール

寄贈者 荒木新太郎夫妻

参加者 博物館協力会（3名）、むかわ町職員（4名）、博物館職員（8名）、報道関係者（4名）

平成28(2016)年3月4日 展示用モニター装置贈呈式（寄贈資料の受入）

会場 穂別博物館

寄贈者 札幌ほべつ会（2名）

参加者 むかわ町職員（7名）、博物館職員（2名）、広報担当者（1名）



夏季特別展「恐竜・絶滅ワニ展」（2015.7.18-11.29）



小林准教授・カリー教授の来館（2015.10.30）



新種モササウルス類の発表（2015.12.8）

I 調査研究活動

【穂別産恐竜化石発掘調査（第三次発掘調査）】

第一次発掘(平成25年度)・第二次発掘(平成26年度)を通じて恐竜化石の大部分は回収できた見込みであるが、主要な産出位置から離れた場所にも化石が埋没している可能性があることから、平成27年度は補足調査として第三次発掘を実施した。

1. 発掘期間

平成27(2015)年9月12日・13日・19日・20日・21日・22日・23日・29日・30日(作業日9日間)

2. 発掘体制・参加人数

(1) 発掘体制：穂別博物館が中心となって実施した。

- ①穂別博物館：櫻井和彦学芸員、西村智弘学芸員、下山正美学芸補助員、高橋孝学芸補助員、中村正彦学芸補助員、村上隆ボランティア(計6名)。
- ②地域振興課企画管理G地域おこし協力隊：太田晶
- ③穂別博物館協力会：山田正、滝川満夫
- ④その他ボランティア：松田麻子(地域おこし協力隊)、干場芽衣(地域経済課産業G)

(2) 参加人数

一日平均5.4人。のべ49人。

3. 採集資料等

(1) 採集標本数：298点

内訳

- ①恐竜化石：5点
- ②その他の化石：293点(アンモナイト、二枚貝、巻貝、その他)

4. 現場視察等

(1) 現場視察

- ①平成27(2015)年9月1日 むかわ町自治会町内会連合会 研修会(15名)
- ②平成27(2015)年10月31日 小林快次(北海道大学総合博物館准教授)、フィリップ・カリー Philip J. Currie (カナダ・アルバータ大学教授)、エヴァ・コペルフス Eva B. Koppelhus (カナダ・アルバータ大学助教)、チンゾリク・ツクトバートル Chinzorig Tsogtbaatar (モンゴル科学アカデミー古生物学センター)(4名)

(2) 学校教育等の見学

- ①平成27(2015)年9月29日 穂別小学校4年生化石学習(20名・引率3)

5. 普及教育活動

①恐竜発掘現場見学ツアー

補足調査に合わせて発掘現場および発掘調査の様子

を公開した。

実施日：9月12日、13日、19日、20日、21日、22日、23日(計7日間・午前午後実施)

参加人数計：87人

【研究者等の来館】(穂別産恐竜化石発掘調査以外)

平成27(2015)年4月

11日 小林快次(北海道大学総合博物館准教授)、アンソニー・フィオリロ Anthony R. Fiorillio 博士(アメリカ・ペロー自然史博物館学芸員)：恐竜化石の調査

14日 重田康成(国立科学博物館 研究主幹)、伊豆倉正隆：アンモナイト標本の調査

25日-29日 マイケル・コールドウェル Michael W. Caldwell (カナダ アルバータ大学教授)、小西卓哉(カナダ ブランドン大学助教)、アルバータ大学博士課程後期2名(ヘイリー・ストリート Hallie Street、ポーリーナ・ウイドブロ Paulina J. Huidobro)：当館所蔵のモササウルス化石の調査

28日 新村龍也(足寄動物化石博物館)：モササウルス化石調査・事業打ち合わせ

平成27(2015)年7月

2-3日 京都大学地質巡検 院生10名・教員2名

15日 アーミン・シュミット Armin Schmitt 博士(ドイツ・Dinosaurier Park)：博物館展示に関するプロモーション

24日 前田晴良(九州大学総合研究博物館教授)、御前明洋(北九州市立自然史・歴史博物館)：収蔵資料の観察

平成27(2015)年8月

21日 小林快次(北海道大学総合博物館准教授)：穂別恐竜の調査

25日-30日 佐藤たまき(東京学芸大学准教授)：クビナガリュウ化石(HMG-1、HMG-1067)の調査

26日 安藤寿男(茨城大学教授)：収蔵資料の調査

平成27(2015)年9月

2日 本山功(山形大教授)・ほか3名：収蔵資料の調査

7日 佐藤たまき(東京学芸大学准教授)、林昭次(大阪市自然史博物館学芸員)、中島保寿(東京大学大気海洋研究所研究員)：クビナガリュウ化石・ウミガメ化石の調査

8日 平山廉(早稲田大学教授)：カメ化石の調査

26日 前田晴良(九州大学総合博物館):貸し出し
標本の打合せ

平成27(2015)年10月

6日 小林快次(北海道大学総合博物館准教授):
穂別恐竜の調査

22日 西本昌司(名古屋科学館主任学芸員):収
蔵資料の調査

29日 吉本忍(国立民俗学博物館 名誉教授):収
蔵資料(民族資料)の調査(HMC-28ほか観察)

31日 小林快次(北海道大学総合博物館准教授)、
フィリップ・カリー Philip J. Currie (カナダ・ア
ルバータ大学教授)、エヴァ・コペルフス Eva B.
Koppelhus (カナダ・アルバータ大学助教)、チン
ゾリク・ツクトバアタル Chinzorig Tsogtbaatar (モ
ンゴル科学アカデミー古生物学センター):恐竜
化石の観察

平成27(2015)年11月

28日 小林快次(北海道大学総合博物館准教授)、
フィリップ・カリー Philip J. Currie (カナダ・ア
ルバータ大学教授):恐竜化石の観察

平成28(2016)年2月

2日 一島啓人(福井県立恐竜博物館主任研究員):
ホベツアラキリュウ全身復元骨格の調査

18日 小林快次(北海道大学総合博物館准教授)、
坂田智佐子(国立科学博物館技術補佐員):貸し
出し標本の打ち合わせ

平成28(2016)年3月

7-8日 小林快次(北海道大学総合博物館准教授)、
林昭次(大阪市自然史博物館学芸員):恐竜化石
の観察

II 刊行物

【むかわ町穂別博物館研究報告】

ISSN 1882-5249

(1) 第31号、29頁:平成28(2016)年3月1日発行
<掲載内容>

① 本山功・丸山俊明・西村智弘・櫻井和彦:北海道波
恵川産含鯨類化石転石炭酸塩団塊の放散虫・珪藻化
石年代。

② 花方聡:北海道むかわ町ペンケワッカタンネナイ沢
に分布する上部白亜系セノマニアン階・チューロニ
アン階境界付近の浮遊性有孔虫化石-松本達郎先生
他採取資料の再検討-

III 論文発表

(1) 小西卓哉(アメリカ・シンシナテティール大学)、
マイケル・コールドウェル(カナダ・アルバータ大
学)、西村智弘、櫻井和彦(穂別博物館)、田上響(福
岡大学):

A new halisaurine mosasaur (Squamata: Halisaurinae)
from Japan: the first record in the western Pacific realm
and the first-documented binocular vision in mosasaurs.
Journal of Systematic Palaeontology. <http://dx.doi.org/10.1080/14772019.2015.1113447> (2015年12月8日にオン
ライン公開)

IV 学会発表

(1) 西村智弘(穂別博)・重田康成(国立科博):北海
道穂別地域における蝦夷層群函淵層の層序と軟体動
物化石群. 日本地質学会北海道支部平成27年度例会.
口頭発表. 平成28(2016)年6月13日、北海道大学.

(2) 西村智弘(穂別博)・御前明洋(北九州市博)・重
田康成(国立科博)・小原正顕(和歌山県自博)・前
田晴良(九大総博):北太平洋地域白亜紀末アンモ
ナイト *Damesites hetonaiensis* Matsumoto. 日本古生
物学会165回例会. 口頭発表. 平成28(2016)年1
月29日-31日、京都大学.

V 学会・大会・研修会等への参加

【日本古生物学会】

(1) 第165回例会<平成28(2016)年1月29日-31日、
京都大学>:西村学芸員出席、個人講演(口頭)発
表

【博物館協会等の大会・研修会等】

(1) 日胆地区博物館等連絡協議会
総会 西村学芸員出席
研修会 加藤館長出席

【その他 視察・技術交流会】

(1) 足寄動物化石博物館視察・技術交流
平成27(2015)7月30日:西村学芸員・下山学芸補
助員・高橋学芸補助員・村上ボランティア参加
(2) 北海道博物館視察・北海道大学総合博物館ボラン
ティアとの技術交流
平成27(2015)8月21日:櫻井学芸員・西村学芸員・

VI 協力団体との連携

【穂別博物館協力会】

活動協力：

- 5月24日 化石採集会①（2名参加）
- 5月31日 化石採集会②（2名参加）
- 6月11日 学習用地水洗（2名参加）＜学習用地の水洗補助および周辺草刈り＞

10月3-4日 学習用地整備＜学習用地の整地＞

後援：特別展「恐竜・絶滅ワニ展」

協力：普及講演会「世界の恐竜研究 最前線!!」

寄贈資料：2件・168点（採集協力）

ホベツアラキリュウ荒木標本レプリカ

【同時開催】
JAXA「はやぶさ」計画—
小惑星イトカワの謎を探る

2015年11月21日(土) - 23日(月・祝) 3日間 9時 - 17時

地球一人と自然
恐竜発掘最前線

平成27年度九州大学総合研究博物館公開展示

■公開講演「恐竜発掘最前線」
日時：平成27年11月21日(土) 13:00~15:30
場所：九州大学総合研究博物館(箱崎キャンパス) 3階・第一会議室
講師：小笠原隆雄(九州大学総合研究博物館 学芸員)・高橋学芸補助員(九州大学総合研究博物館 学芸員)・中村学芸補助員(九州大学総合研究博物館 学芸員)・村上ボランティア参加

■お楽しみ
1. 化石(学習用)：小惑星イトカワの謎を探る
2. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る
3. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る
4. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る

■お楽しみ
1. 化石(学習用)：小惑星イトカワの謎を探る
2. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る
3. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る
4. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る

■お楽しみ
1. 化石(学習用)：小惑星イトカワの謎を探る
2. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る
3. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る
4. 学習用(学習用)：恐竜の謎を探る

2015年11月13日(金)~23日(月・祝) 10:00~17:00
「はやぶさ」関連は11月21日(土)~23日(月・祝) 3日間 3階・第一会議室
会場：九州大学総合研究博物館(箱崎キャンパス) 3階・340号室

主 催：九州大学総合研究博物館
協 力：心びわ湖立総合博物館、北海道大学総合博物館、JAXA、九州大学理学部、九州大学農学部
●お問い合わせ：九州大学総合研究博物館事務局 TEL. 092-842-4252 http://www.museum.kyushu-u.ac.jp

平成27年度九州大学総合研究博物館公開展示

地球一人と自然
恐竜発掘最前線

北海道むかわ町穂別地域・自然記念のアドロワルス科恐竜化石の発掘調査

いま北海道むかわ町で穂別50mの大型恐竜化石の発掘が進められています。オビ、モササウルス、ウミガメ、アンモナイトの化石とともに、自作、発掘中の恐竜化石を「恐竜発掘最前線」で紹介します。恐竜ではさらに九州では初めての「九州化石ネットワーク」による九州全体の博物館の紹介も予定されています。

また、発掘を支援する小笠原隆雄(九州大学総合研究博物館)および高橋学芸補助員(九州大学総合研究博物館)をお招きし、発掘現場の恐竜化石を特別にお見せします。

なお、11月21日(土)の公開講演会参加の応募300名様に、恐竜のモササウルスの化石をプレゼントします(先着順)。

【同時開催】
JAXA「はやぶさ」計画—
小惑星イトカワの謎を探る

2015年11月13日(金)~23日(月・祝) 10:00~17:00

「はやぶさ」関連は11月21日(土)~23日(月・祝) 3日間 3階・第一会議室

会場：九州大学総合研究博物館(箱崎キャンパス) 3階・340号室

主 催：九州大学総合研究博物館
協 力：心びわ湖立総合博物館、北海道大学総合博物館、JAXA、九州大学理学部、九州大学農学部
●お問い合わせ：九州大学総合研究博物館事務局 TEL. 092-842-4252 http://www.museum.kyushu-u.ac.jp

九州大学総合研究博物館公開展示ちらし(2015.11.13-23) 表・裏

I 行事等

【博物館協議会】

平成 27(2015) 年 12 月 3 日 第一回：8 名出席
 平成 28(2016) 年 3 月 25 日 第二回：7 名出席

【運営協力等】

＜夏トクふりーぱす＞

ネクスコ東日本による、ETC 搭載の自動車限定サービス。ドラ割「北海道 ETC 夏トクふりーぱす」を購入することにより、対象期間内の連続する最大 3 日間、北海道の高速道路が乗り放題になり、合わせて近隣市町村内の各施設・商店にて優待が受けられる。当館は入館料の減額を行った。

実施期間：平成 27(2015) 年 6 月 5 日～11 月 4 日の間の利用可能日のうち連続する最大 3 日間。

＜ロックンロード 274＞

樹海ロード広域連携協議会(事務局:夕張市)による、国道 274 号沿いの 4 市町村(夕張市、むかわ町、占冠村、日高町)内の各施設・商店にて優待を受けられるリストバンドの製作・販売。交流人口の拡大が目的。当館は入館料の減額で対応した。

実施期間：平成 27(2015) 年 4 月 1 日～平成 28(2016) 年 3 月 31 日。

＜胆振メモリアルフォトキャンペーン＞

北海道胆振総合振興局による、北海道新幹線開業に向けて胆振地域を観光客に宣伝することと、地域住民への気運醸成を加速させることを目的としたキャンペーン。AR 技術を活用した「胆振旅ナビ AR フォトリリー」に協力し、AR マーカーを受付窓口に設置した。

実施期間：平成 27(2015) 年 12 月 25 日～平成 28(2016) 年 3 月 25 日。

＜いぶり ONE-Jr. 着ぐるみ制作プロジェクト＞

胆振総合振興局のマスコットキャラクターである「いぶり ONE」の着ぐるみを再制作するための支援金のお礼としての「いぶりサンクスパスポート」による優待サービス。入館料の減額で対応した。

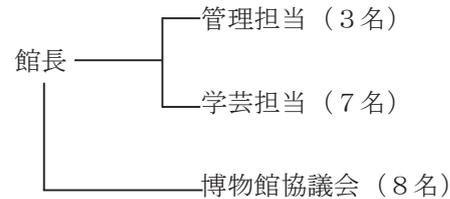
【その他】

＜防災訓練＞

「文化財防火デー」に合わせて実施。

実施日：平成 28(2016) 年 1 月 26 日

II 組 織



【博物館協議会委員】＜平成 27(2015) 年度＞

任期：平成 26(2014) 年 8 月 1 日 - 平成 28(2016) 年 7 月 31 日

- 会 長 梅津讓一
- 副会長 山田正
- 委 員 鎌田政博
- 委 員 只野繁
- 委 員 田中波留美
- 委 員 相澤孝行
- 委 員 佐々木敏郎
- 委 員 宮田千春

【博物館職員】＜平成 27(2015) 年度＞

- ＜館 長＞ 加藤英樹
- ＜管理担当＞
- 臨時職員 早瀬千佳
- 臨時職員 多村こゆる
- ＜学芸担当＞
- 学芸員 櫻井和彦
- 学芸員 西村智弘
- 学芸補助員(臨時職員) 下山正美
- 学芸補助員(臨時職員) 藤江晃(～8/31)
- 学芸補助員(臨時職員) 高橋孝
- 学芸補助員(臨時職員) 中村正彦(4/1～)
- 学芸補助員(臨時職員) 葛西素美(11/19～)

III 刊行物

【むかわ町穂別博物館館報】

ISSN 1882-5230

第 32 号：平成 26(2014) 年度版

23 頁、平成 27(2015) 年 12 月発行

IV 利用状況

【常設展示観覧者】

平成 27(2015) 年 4 月～平成 28(2016) 年 3 月

月	一般	学生	小計	幼児	合計	開館日
4	392	203	495	67	562	25
5	1,202	478	1,680	235	1,915	25
6	423	67	490	64	554	25
7	905	283	1,188	155	1,343	31
8	1,539	826	2,365	357	2,722	31
9	951	493	1,444	173	1,617	25
10	595	107	702	216	918	26
11	418	95	513	115	628	25
12	95	9	104	29	133	25
1	107	28	135	15	150	22
2	112	8	120	28	148	23
3	402	104	506	167	673	26
計	7,141	2,601	9,742	1,621	11,363	309

(単位：人・日)

【博物館特定入館日】

〔博物館開館記念日関連事業〕

7 月 20 日の開館記念日に関連して、平成 26(2014) 年 7 月 15 日(火)～7 月 21 日(月・祝)の 7 日間を町民無料入館日とした。

〔国際博物館の日〕

国際博物館会議(イコム、ICOM)のモスクワ大会(1977 年)にて制定され、日本では平成 14 年度から日本博物館協会とイコム日本委員会が協力して記念事業が展開されることとなった「国際博物館の日」(5 月 18 日)の趣旨に賛同し、当日を町民無料入館の日とした。平成 27 年度は 5 月 18 日が休館日の月曜日となることから、前日の 17 日を町民無料入館日とした。

〔合併 10 周年記念事業〕

平成 28 年 3 月 27 日に旧穂別町と旧鶴川町が合併してむかわ町が誕生して 10 年になることを記念して、3 月 19 日(土)～21 日(月・祝)の 3 日間を町民無料入館日とした。

〔博物館特定入館日に伴う町民無料入館〕 (単位：人)

実施日	行事名	一般	学生	計
H27.5.17	国際博物館の日	1	0	1
7.18-24	博物館開館記念日	17	7	24
9.21	敬老の日	8	7	15
11.3	文化の日	2	1	3
11.23	勤労感謝の日	3	0	3
H28.1.11	成人の日	4	0	4
3.19-21	合併 10 周年記念	30	9	39
計	15 日	65	24	89

一般：高校生より上、学生：小学生～高校生

【学校週五日制関連事業】

＜町内児童生徒に対する入館料減免＞

学校完全週五日制及び「総合学習」の導入に合わせ、むかわ町内児童生徒並びに引率者については無料観覧とした。

平成 27 年度の利用者数：29 人(個人見学のみ)

V 歳入

区 分	有料入館者数	観覧料
一般	個人	5,378
	団体	420
	割引	1,343
学生	個人	1,718
	団体	384
	割引	499
小 計	9,742	1,887
諸収入	物品販売代	46
	体験学習料	24
小 計		70
合 計		1,957

(単位：人・千円)

VI 歳出

費 目	金 額
報 酬	99
共 済 費	956
賃 金	7,429
報 償 費	130
旅 費	144
需 用 費	8,231
役 務 費	1,030
委 託 料	2,561
使用料及び賃借料	684
負担金補助及び交付金	36
工 事 費	3,132
備 品 購 入 費	2,404
補償補填及び賠償金	0
博 物 館 費 合 計	26,836

(単位：千円)

Ⅶ 利用案内

【開館時間】

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】

- ・毎週月曜日。
- ・国民の祝日の翌日。ただし、その翌日が土曜日および日曜日に当たるときは月曜日とし、月曜日が国民の祝日又はその翌日に当たるときは火曜日及び水曜日とする。
- ・12月31日-1月5日。
- * 7、8月は無休。

【観覧料】

	一般	学生
個人	300円	100円
団体	200円	50円
割引	100円	無料

一般：高校生より上

学生：小学生・中学生・高校生

幼児（未就学児童）は無料（要大人の付添い）

団体：10人以上

割引：穂別地球体験館（体験館）との共通利用割引（両施設を見学する場合の割引制度。体験館に先に入館した場合、この料金が適用される。当館を先に入館した場合は通常料金で、体験館の入館料が割引される。）

【減免】

「（むかわ町立）博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない（むかわ町立博物館設置条例、第4条）」が「（むかわ町）教育委員会は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる（同条例、第5号）」。減免は、教育・研究・福祉を目的とし、以下に従う。

むかわ町立博物館施行規則第4条の規定による観覧料の減免は、次のとおりとする。

（教育目的）

1) むかわ町内の小・中学校及び高等学校の児童生徒と引率者が教育を目的として入館する場合。

（研究目的）

2) 国・地方公共団体及び学術研究機関の職員が調査・研究のため入館する場合。

（福祉目的）

3) 老人福祉法（昭和38年法律第133号）第15条に規定する町内の老人福祉施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合。

4) 知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）第19条に規定する町内の知的障害者援護施設が収容者の養護計画の実施のため入館する場合。

（公益目的）

5) 前各号に定めるもののほか、公益上または教育振興上特に館長が必要と認める場合。

むかわ町穂別博物館館報

第33号

平成27（2015）年度版

発行 2017年3月

発行者 むかわ町穂別博物館

〒054-0211

北海道勇払郡むかわ町穂別80番地の6

TEL/FAX (0145) 45-3141